

# 新聞報道における 終活のとらえ方とその変遷

株式会社NTTデータ数理システム 2017年度 学生奨励賞応募研究

横浜国立大学大学院 環境情報学府  
博士課程後期（安藤研究室）

木村由香

## 目次一本論の構成

1. 研究背景

2. 問題意識・  
研究目的

3. 新聞記事の  
内容分析

4. 考察

5. まとめ・  
今後の課題

参考文献

---

# 1. 研究背景

▶ 研究背景—はじめに:終活とは？

🍇 **終活:主に高齢者が、  
自らの老いや死に備える動き**  
(葬儀、墓、医療、介護、財産・物の整理、保険、自分史、等々)

**高齢社会のさまざまな課題**

(核家族化→**高齢者のみ世帯**・**高齢者独居世帯**増加)

高齢者の  
孤立

介護・  
認知症

尊厳死等の  
意思決定

財産整理

葬儀・墓の  
変化

等々…

**終活**

**高齢者自らが  
高齢社会の課題に  
備える**

## ▶ 研究背景—終活という言葉の発生

### ❖ 2009年「葬儀・墓の準備」を指す造語として出現

- ❖ 週刊朝日の連載記事「現代終活事情」による
- ❖ 就活（就職活動）のもじり→終〇活動??

## メディアによって作り出された言葉

ただし、2009年以前から葬儀や墓の備えをはじめ「終活」的な動きはすでにあった

- ※1980年代後半：葬儀や墓についての大きなパラダイム変化 (森 2010)
- ※1990年代：脳死をめぐる議論、尊厳死等の問題提起 (石井ら 2002)
- ※1990年代後半：「エンディングノート」の出現 (井上 1996)

## ▶ 研究背景—終活の変遷：終活市場を中心として—1—

2009～  
2010

- 「現代終活事情」 葬儀・墓 中心
- 新語・流行語大賞ノミネート

2011

- 東日本大震災→人々の死への意識変化 (電通 2012)
- 映画「エンディングノート」
- 終活NPOや団体が多く出現 (終活カウンセラー協会等)
- 経産省「ライフエンディング・ステージ」提唱→終活市場 (経済産業省 2011;2012)

終活への意識の高まり→  
内容も拡大  
(医療、介護、財産・物の整理、保険、等々)

2012～  
2013

- 新語・流行語大賞Top10
- 終活専門誌「ソナエ」創刊

## 研究背景—終活の変遷：終活市場を中心として—2—

2014

- 『現代用語の基礎知識』カテゴリ・定義変化  
カテゴリ：「時代・流行世相語」→「高齢社会・介護」  
定義：「葬儀・墓の備え」→「**死の前～死後の備え**」

2015

- 「エンディング産業展」はじまる ※終活関連産業展示会

現在

- 辞書：自らの老いや死に関する**様々な事柄**に備えること
- 終活団体等：終活を通じ自らの人生をとらえ直しこれからの生き生きとした**生き方を考える**（終活カウンセラー協会 2016）

終活関連団体・業界の間では、「葬儀・墓」だけでなく、  
医療・介護・保険・相続・その他**様々な備え**、  
そして「**生き方を考える**」にまで変化→では一般的には？

🍎 **高齢者の老いや死への備え**  
**さまざまな学問分野からそれぞれの視点で断片的に研究**

- ❖ 認知症や介護への対応
- ❖ 尊厳死など生命倫理に関する問題
- ❖ 葬儀や墓への意識と実態の変化
- ❖ 死生観 …など

**これらを終活という現象に包括して  
とらえたものは極僅か**



### 🍎 これまでの先行研究の研究成果

- ❖ 年齢と死の備えへの意識との相関  
(大坂 2010; 日瀧・岡本 2008)
- ❖ 死への備えの必要性を感じる一方、自らの死について考えるのを避ける傾向 (谷田ら 2010; 福武ら 2013)
- ❖ 自らの墓の備えおよび葬儀への経済的な備えが多い  
(福武ら 2013; 経済産業省 2012)
- ❖ 取り組む動機「迷惑をかけたくない」
- ❖ 物の整理や預金等財産の整理について取り組みやすく満足感を得られやすい
- ❖ 死や死の備えについて話せる機会がなく、話せたほうが良いとは思っている (上記3件: 木村・安藤 2015)

## 🍷 先行研究の課題

- ❖ 高齢者の老いや死への備えを終活という現象に包括してとらえたものは極僅か
- ❖ 主な実践者である高齢者にとって終活がどのような影響を与えるのか？
- ❖ 終活業界の提唱するような「生き生きとした人生」（サクセスフル・エイジング）につながるものとするためには？

**終活という現象を、様々な角度から  
分析し考察することが求められる**

---

## 2. 問題意識・研究目的

## ▶ 問題意識：一般の人々にとっての終活とは何か

### 🍷 「研究背景」で述べた終活の定義の広義化は…

- ❖ 主に終活に関連する企業や団体等「終活業界」の中での終活像→どこまで一般に知られているか？
- ❖ 終活に関わる人々や企業、団体によってそのとらえ方が異なる可能性も

「終活」の言葉を生み出したマス・メディア、世論に大きな影響力を持つマス・メディアが終活をどのようにとらえ扱ってきたのかを知る

一般における終活のイメージを伺い知る  
手がかりとなる

## ▶ 本研究の目的

**マス・メディアのうち、新聞記事において、  
終活がどのように取り上げられてきたのか  
についてその変遷とともに明らかとする**

- 🌸 **朝日新聞のテキストマイニングによる内容分析**
  - 新聞記事は文字データであり分析しやすい
  - 朝日新聞はデータベースが充実している
  - 大量の文字データ分析にはテキストマイニングが適している
- 🌸 **先行研究等から、実際に終活に取り組む人々の意識と比較し、報道の内容と比較し相違を検討**
- 🌸 **終活は、葬儀や墓への備えを指す言葉としてマス・メディアに作られたものであることに留意しつつ分析**

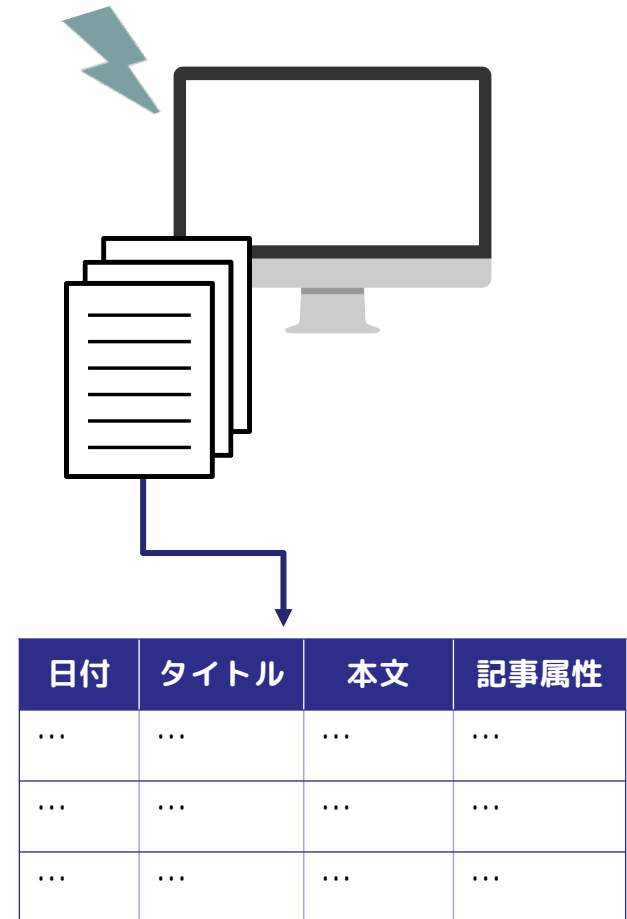


# 3. 新聞記事の内容分析

## ▶ 「終活」新聞記事分析概要

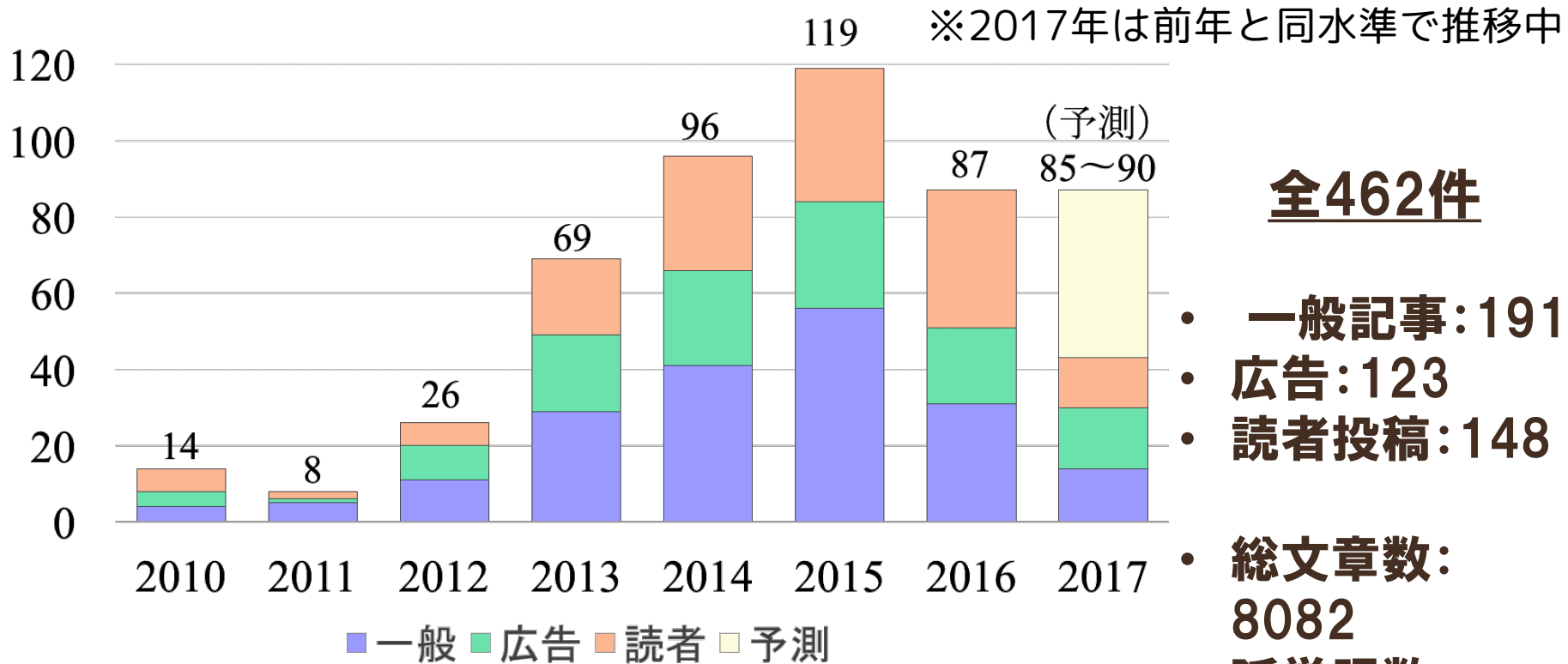
### 🍎 朝日新聞・終活記事データ

- 「聞蔵II」にて、朝日新聞を対象、「終活」をキーワードに設定し記事検索（～2017年5月31日分まで）
- 終活の内容に沿わない記事データの削除
- 「日付」「タイトル」「本文」に加え、「記事属性」の項目を設定（分析者手作業にて「一般記事」「広告」「読者投稿」に分類）
- テキストマイニングによる内容分析（Text Mining Studio 6.0）



## ▶ 結果—記事数の推移

### 🍷 朝日新聞「終活」記事（～2017年5月31日）



	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
一般	4	5	11	29	41	56	31	14
広告	4	1	9	20	25	28	20	16
読者	6	2	6	20	30	35	36	13



## ▶ 結果—頻度分析：頻出単語

### 上位1～10

終活	576
人	483
葬儀	363
自分	359
考える	308
思う	265
人生	234
良い	232
墓	230
家族	214

「葬儀」「墓」は高頻度

### 上位11～20

話す	180
いう	177
死	176
エンディングノート	165
開く	153
生きる	150
相続	148
書く	142
多い	142
言う	140

終活の具体的内容である  
「エンディングノート」  
「相続」も高頻度で出現

## ▶ 結果一頻度分析：係り受け

### 上位1～10

人－増える	32
人－いる	28
<b>葬儀－墓</b>	<b>28</b>
人－多い	26
準備－終活	22
人生－最期	22
人生－終わり	21
最期－迎える	20
終活－考える	19
<b>良い－思う</b>	<b>19</b>

終活記事においては、終活とはどのようなものかを示す説明文が冒頭に付与されていることが多く、係り受けにもこれらが反映されている

例)

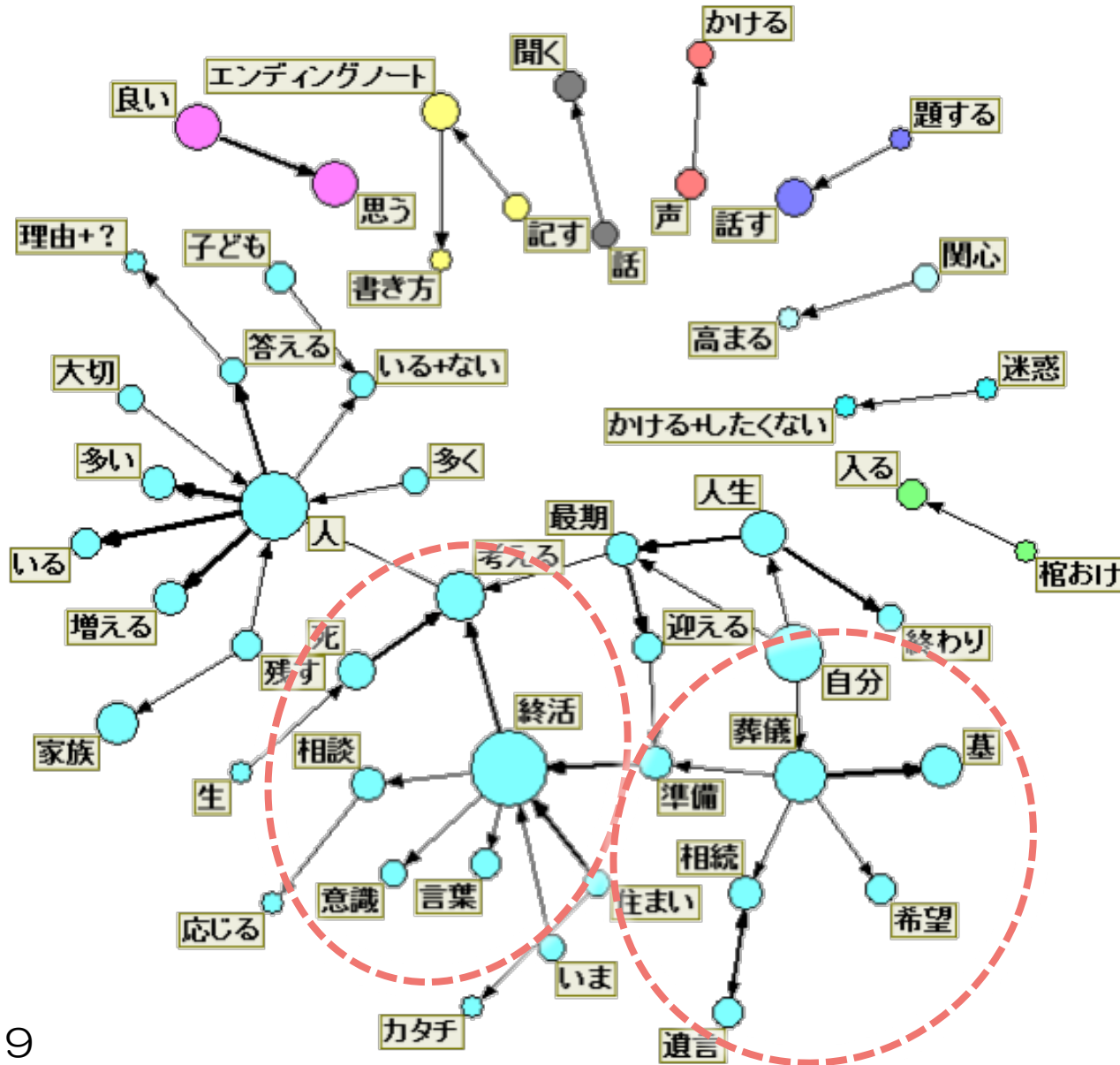
- 「自分の人生の終わりに備える活動」
- 終活に取り組む  
「人が増えている」「人が多い」

**これらを除くと特徴的なのは  
「葬儀－墓」と「良い－思う」**

終活を「葬儀や墓に備える」と説明する場合・葬儀や墓についてテーマとする場合が見られる

※「良い－思う」については後述

# 結果—ことばネットワーク分析



「終活」と「葬儀」「墓」はネットワーク図でも隣接し、関連が深い

## 結果一特徴語分析

※結果を見やすくするため、「終活」の言葉は除いた

一般	
単語	指標値
人	129.36
女性	57.63
多い	43.99
墓	41.31
家族	38.57
葬儀	37.79
亡くなる	33.15
死	32.69
増える	32.17
良い	32.14

「葬儀」「墓」は一般記事の特徴女性をとらえる記事が多い様子

広告	
単語	指標値
講座	187.05
問い合わせ	132.44
申し込み	118.94
相続	118.27
考える	115.19
住まい	114.37
テーマ	95.51
無料	88.15
話す	86.73
遺言	77.09

「遺言」「相続」の講座が、広告における終活の中心的話題

読者	
単語	指標値
思う	92.57
夫	92.45
今	53.06
主婦	44.59
日記	44.16
年齢	42.45
捨てる	41.06
本	38.43
迎える	38.04
言葉	36.27

「夫」「主婦」→女性の投稿が多い様子終活は日記や本を捨てるなどの物品整理か

※結果を見やすくするため、「終活」の言葉は除いた

※2012年までと年途中の2017年は件数少ないため、  
2013～2016年の結果を示した

## ▶ 結果一時系列分析

2013	2014	2015	2016
葬儀 (66)	人 (123)	人 (114)	人 (103)
自分 (65)	墓 (113)	自分 (88)	自分 (65)
人 (55)	葬儀 (88)	思う (72)	葬儀 (53)
考える (53)	考える (75)	考える (71)	思う (53)
死 (52)	思う (73)	良い (69)	良い (50)
家族 (36)	良い (65)	葬儀 (56)	考える (47)
準備 (36)	人生 (59)	墓 (54)	家族 (46)
開く (35)	自分 (54)	場合 (53)	女性 (43)
最期 (35)	話す (47)	相続 (51)	いう (41)
人生 (33)	書く (44)	人生 (49)	人生 (40)
話す (29)	いう (42)	話す (46)	生きる (39)
エンディングノート(29)	死 (41)	いう (45)	寺 (34)

終活具体的項目  
「葬儀」「墓」は  
いずれかまたは  
双方が常に上位

2014年から「思う」「良い」  
登場→主観的ポジティブ表現  
※スライド15：頻出係り受け  
にも登場する目立った表現

2016年から  
日常の生活を感じさ  
せる言葉が上位に  
増えつつある

---

# 4. 考察

## ▶ 考察—終活の定着

### 🍷 「終活」という言葉の定着

- ❖ 2009年の登場から8年
- ❖ 2012年の新語・流行語大賞Top10から5年
- ❖ 記事数は、2015年をピークとしつつ、2016・2017（5月現在）と同水準で安定推移
- ❖ 安定した広告記事数
- ❖ 読者投稿の割合増加

**一般にも「終活」の言葉は浸透し、  
定着しているといえる**

## ▶ 考察—終活の話題とその変化

### 🍇 終活の中心的話題はやはり葬儀・墓

- ❖ 葬儀・墓（＋相続）の出現率は高く、やはり終活の中心として扱われている
- ❖ 加えて相続も多く、広告においては相続・遺言書講座が中心

**葬儀・相続が依然として中心（＋相続）  
関連団体の定義ほど広義な内容を  
扱ってはいない**



## ▶ 考察—終活の話題とその変化

### 🍇 時系列によるの変化

- ❖ 葬儀・墓・相続が中心的な話題だが、時系列別に丹念に見ると、話題の扱いに変化が見られる
- ❖ 2014年よりポジティブな表現出現
- ❖ 2016年より日常生活を感じさせる表現増加

**葬儀・墓・相続を中心としつつ、  
明るい表現が増え、  
徐々に生活と絡んだ形でとらえつつある  
今後の変化に着目する必要性**

## ▶ 考察—終活と死

- 🍇 **終活といえども、その内容は必ずしも死ぬということそのものに焦点が当てられていない**
  - ❖ 死生観・人生観に関する記事は薄く、読者投稿に一部出現、一般記事にはほぼ見られず
  - ❖ 先行研究（木村・安藤 2015 / スライド7）の、死や死の備えについて語りたいというニーズとは一致していない
  - ❖ 物の整理など生活に密着した部分を重視する視点（木村・安藤 2015 / スライド7）とは、ある意味一致

**「終活」≠死について考える  
現実の課題と内心の課題とのちがい**

---

# 5. まとめ・今後の課題

## ▶ まとめ

終活は、葬儀や墓について備えるという意味でマス・メディアに作り出された言葉であるということに留意したうえで、

**朝日新聞における終活記事の内容およびその変遷を明らかにすることを試みた**



**やはり葬儀や墓が中心だが、徐々にポジティブな表現や日々の生活につながるような表現とともに語られつつある**

- マス・メディアにおける終活は、今や必ずしも暗い扱い、特殊な扱いとは言えない
- 終活記事の内容はまさに今変化の中にあり、今後の情報発信の仕方が重要

## 🍇 今を終活の変化の時ととらえるならば…

- ❖ 終活に関連する様々な人々がどのような意図でどのような提案をしていくのかによって、その変化の方向が定まっていく
- ❖ 今後の動きを注意深く観察する必要性
- ❖ 他社新聞記事、テレビ等他のマス・メディア、終活市場、個別のテーマ、高齢者自身の意識を調査する必要性

**高齢社会における様々な問題・課題を  
検討する一つの切り口として、  
終活という視点をより深めていきたい**



# 参考文献

## ▶ 参考文献 -1-

- 森謙二（2010）「葬送の個人化のゆくえ—日本型家族の解体と葬送—」『家族社会学研究』22(1), pp. 30-42.
- 石井京子・上原ます子（2002）「高齢者の死の準備状態に関する研究—5年間の経時的変化から—」『ヒューマン・ケア研究』3, pp. 1-10.
- 井上治代（1996）『遺言ノート—死ぬ前にどうしても残しておきたい大切なこと』ベストセラーズ.
- 電通（2012）『「震災後二年目に向けての生活者の意識・行動変化」に関する調査結果』.
- 自由国民社（2017a）「2010年ユーキャン新語・流行語大賞 候補語」『「現代用語の基礎知識」選 ユーキャン新語・流行語大賞 全受賞記録』<http://singo.jiyu.co.jp/old/index.html>（2017年8月28日）.
- 自由国民社（2017b）「2012年ユーキャン新語・流行語大賞」『「現代用語の基礎知識」選 ユーキャン新語・流行語大賞 全受賞記録』<http://singo.jiyu.co.jp/old/index.html>（2017年8月28日）.

## ▶ 参考文献 -2-

- 自由国民社（2017c）「終活」『現代用語の基礎知識 1998~2017（Windowsソフトウェア版）』自由国民社・ロゴヴィスタ.
- 経済産業省（2011）『安心と信頼のある「ライフエンディング・ステージ」の創出に向けて 報告書』.
- 経済産業省（2012）『安心と信頼のある「ライフエンディング・ステージ」の創出に向けた普及啓発に関する研究会 報告書』.
- 終活カウンセラー協会（2016）「終活フェスタin東京 2016 開催にあたって」『終活フェスタホームページ』<http://www.shukatsu-fesuta.com/>（2017年8月28日）.
- 大坂紘子（2010）「高齢者を援助するボランティアの老いへの準備行動 —地域ボランティア活動による援助成果」『国立女性教育会館研究ジャーナル』14, pp.112-118.
- 日瀧淳子・岡本祐子（2008）「中年期の時間的展望と精神的健康との関連 —40歳代, 50歳代, 60歳代の年代別による検討」『発達心理学研究』19(2), 144-156



## ▶ 参考文献 -3-

- 谷田恵美子・遠藤明美・安東由美（2010）「'死への準備'に対する認識 ―死を回避したい思いと死後の世界観の尊重」『インターナショナルnursing care research』9(4), pp.1-9.
- 福武まゆみ・岡田初恵・太湯好子（2013）「高齢者夫婦の死に対する意識と準備状況に関する研究」『川崎医療福祉学会誌』22(2), pp.174-184
- 木村由香・安藤孝敏（2015）「エンディングノート作成にみる高齢者の「死の準備行動」」『応用老年学』9(1), pp. 43-54.
- NTTデータ数理システム（2017）『Text Mining Studio バージョン 6.0 マニュアル』.